



AICHI MEDICAL UNIVERSITY
2022

愛知医科大学



〒480-1195
愛知県長久手市岩作雁又1番地1
TEL:0561-62-3311
FAX:0561-62-4866
<https://www.aichi-med-u.ac.jp/>



建学の精神

本学は、新時代の医学知識、技術を身につけた教養豊かな臨床医、特に時代の要請に応じて地域社会に奉仕できる医師を養成し、あわせて医療をよりよく発展向上させるための医学指導者を養成することを目的とする。

そのため、医学を中心とした広汎な基礎的知識を授け、深い専門的技術を教授研究し、心身ともに健康なる医師を養育し、その知的、道徳的能力及び社会的有用性の向上を期している。

なお、私学の特性に鑑み、その自主性を重んじ、公共性を高めることによって、私立医科大学の健全なる発展を図り、社会福祉、殊に地域医療に貢献するとともに、東南アジアその他発展途上国の医療の進歩、向上に協力せんとする。

本学の修業年限は6年で、その間の教育に一貫性を期するとともに、研究の交流を図るために、その組織を基礎科学、基礎医学、臨床医学の各部門にわかれ、それぞれの緊密なる連携を図ることとした。この点本学が新しい構想のもとに企画したところであり、本学の特色とするところである。かくして新しい「カリキュラム」をもって人間形成及び創造性の啓発を図り、人命の尊厳を守り、ヒューマニズムに徹し、各自の自主的、自発的勉学を尊重し、人間としての自覚にたった医学教育を目指しているのである。

学是

具眼考究

「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立った包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。さらに卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

CONTENTS

理事長・学長 MESSAGE	P.03
沿革・創立50周年記念事業	P.05
FEATURE	
充実の教育環境で行う人材育成	P.07
卓越した研究活動と最先端医療	P.09
地域とつながり社会へ貢献する	P.11
救急医療や災害医療に幅広く対応	P.13
大学	P.15
医学部医学科	P.17
看護学部看護学科	P.19
大学院	P.21
国際交流	P.23
大学病院	P.25
メディカルセンター	P.27
眼科クリニック MiRAI	P.28
AREA INFORMATION	P.29
ACCESS	P.30



愛知医科大学

充実した環境のなかで新しい時代の医療を担う医療人を育成する



愛知医科大学病院

診療・教育・研究のすべての領域において医療を基盤とした社会貢献を目指す



FOR THE PATIENT,
FOR THE UNIVERSITY,
FOR THE PUBLIC

愛知医科大学は、地域、病院診療、研究、

さまざまな連携を構築し、世界を見据えた視座で、

明日の医療を支える

卓越した医療人材の育成に邁進します。

Profile

1975年名古屋大学医学部卒業、1995年名古屋大学医学部神経内科教授、
2001年名古屋大学総長補佐、2009年名古屋大学大学院医学系研究科長・医学
部長、2015年名古屋大学大学院医学系研究科神経変性・認知症制御研究部特任
教授、2018年学校法人愛知医科大学副理事長などを経て、2019年1月理事長に
就任後、2020年4月から学長を兼任。



理事長・学長 MESSAGE

優秀な人材を育成し 医学・医療・福祉に貢献します

愛知医科大学は、名古屋市東部近郊の長久手市にあります。長久手市は多くの大学
などがある学園都市ですが、2005年に万博「愛・地球博」が開かれたところとしても有
名で、ここ数年住みよさランキング上位に名を連ね、また全国でも平均年齢が若いまち
でもあります。

愛知医科大学は、1972年に建学された比較的新しい大学ですが、1980年度に大学
院医学研究科、2000年度に看護学部、2004年度に大学院看護学研究科が設置さ
れ、2学部・2研究科体制となりました。これまでの医学部卒業生は4,529名で、そのうち
4,489名(99.1%)が医師となっており、また看護学部の卒業生は1,995名で、そのうち
1,992名(99.8%)が看護師・保健師として活躍しています。

2007年から始まった新病院を中心とするキャンパス再整備は、2018年のドクターヘリ
格納庫の完成をもってすべて終了し、2014年5月には、最高の機能をもつ新病院(中
央棟)が完成しました。数々の最先端医療機器も取り入れ、最先端医療が可能なこの
病院は学生の臨床教育の場としても十分に活用されております。2022年をもって創立
50周年を迎える本学は、2021年4月に岡崎市北部に本学の分院として、「愛知医科大
学メディカルセンター」を開院しました。教育病院として特に後期研修医の専門医研修
のフィールドとしての機能の充実化を図るほか、地域医療の拠点としても更なる発展を
させていきたいと考えております。2022年7月には、眼科領域に特化した最先端の診
療・研究センターとして、「愛知医科大学眼科クリニック MiRAI」を開院しました。

愛知医科大学は、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を目指してこれまで努力
してきました。よい環境とよい指導者による優れた教育・研究・診療に加え、愛知医科大
学の存在価値を示す特色ある大学を目指しています。その結果、本学を卒業された
医師・看護師が優秀で人間的にも素晴らしく、かつ、急速に変貌しつつある医療・福祉
分野のニーズに対応できる人材に育つことを最終目標といたしております。

学校法人愛知医科大学
理事長・学長

祖父江 元

- 1971 12.25 愛知医科大学(医学部医学科)設置許可
- 1972 4.11 医学部第1回入学式
- 1974 5.30 新附属病院使用許可
- 9.9 高等看護学院設置認可(1976.9.20 看護専門学校に改称)
- 1979 7.1 附属病院救命救急センター開設
- 1980 3.26 大学院医学研究科設置認可
- 6.4 大学院医学研究科第1回入学式
- 1981 4.23 情報処理センター設置
- 1983 4.1 加齢医学研究所設置
- 4.20 メディカルクリニック開設許可
- 12.21 附属動物実験施設設置(1988.4.1 動物実験センターに改称)
- 1987 10.1 運動療育センター設置
- 1988 4.1 核医学センター設置、研究機器センター設置、分子医学研究所設置、附属図書館を医学情報センター(図書館)に改称
- 1993 6.16 産業保健科学センター設置
- 1994 2.1 附属病院が特定機能病院に承認
- 1996 3.28 救命救急センターが高度救命救急センターに認定
- 1999 12.22 看護学部看護学科設置認可
- 2000 4.5 看護学部第1回入学式
- 2001 6.16 薬毒物分析センター設置
- 2002 1.1 学際的痛みセンター設置
- 4.26 看護専門学校廃止認可
- 2003 11.27 大学院看護学研究科設置認可
- 2004 4.1 医学教育センター設置
- 4.7 大学院看護学研究科第1回入学式
- 2005 4.1 病院名を愛知医科大学病院に改称
- 2008 4.1 総合医学研究機構設置、臨床試験センター設置、先端医学・医療研究拠点設置、看護実践研究センター設置
- 2010 4.1 総合医学研究機構を改組(動物実験センター、核医学センター、研究機器センター、臨床試験センターを同機構の部門として統合)
- 2012 1.4 長久手市市制施行に伴う所在地名地番の変更(愛知県長久手市岩作雁又1番地1)
- 3.31 先端医学・医療研究拠点廃止
- 4.1 先端医学研究センター設置
- 2014 4.23 新病院(中央棟)使用許可
- 11.1 災害医療研究センター設置
- 2015 4.1 国際交流センター設置、シミュレーションセンター設置
- 2016 4.1 先端医学研究センター廃止、研究創出支援センター設置
- 2017 4.1 総合学術情報センター設置(医学情報センター(図書館)廃止、情報処理センター廃止)
- 2021 3.17 愛知医科大学メディカルセンター使用許可
- 2022 6.1 メディカルクリニックを眼科クリニック MiRAIに改称



先進の医療を 人と社会と未来へ つなぐ

記念事業10項目の紹介

01

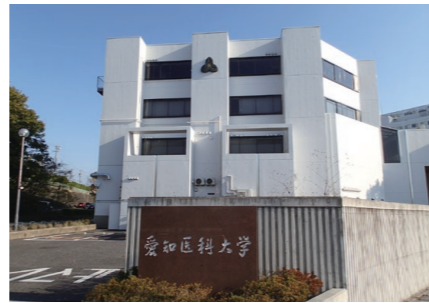
メディカルセンター開設(2021年4月)



2次救急から慢性期までの幅広い患者さんを対象に、大学分院ならではの質の高い医療の提供を通して、地域を守り共に生きる中核病院を目指します。また、若い医師らを育てる「教育病院」の機能も充実させていく予定です。

02

連携大学院方式の導入(2021年4月) 日本造血細胞移植データセンター 移転・開設(2022年1月)



愛知医科大学と一般社団法人日本造血細胞移植データセンター(JDCHCT)との間で連携・協力に関する協定書を締結し、連携大学院「造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座」を設置。2022年1月には日本造血細胞移植データセンターを本学2号館に移設・開設しました。

03

「愛知医科大学 眼科クリニック MiRAI」 を開設



開設から38年を迎えたメディカルクリニックは、総合的な診療体制等の抜本的な見直しを行い、株式会社メニコンとの産学連携寄附講座(近視進行抑制)と眼科日帰り手術ラボの設置を中心とした、時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点として生まれ変わります。

04

医心館セミナー室拡充



医心館は学修用施設として利用されており、特に国家試験を控えた学生のグループ学習に必要なセミナー室が設置されています。今後更なる学修環境の向上を目的に、セミナー室の拡充を行います。

05

スターバックスの誘致



人と人、人と病院、人と自然をつなぐ。立石池やその周辺に広がる四季折々の風景を眺めながら、学生や教職員、さらに地域住民の方々の交流や憩いの場に幅広く利用いただくことを目指し、スターバックスの誘致を行います。

06

レストラン「オレンジ」の改修



ガラス張りの明るく開放的な雰囲気のレストラン「オレンジ」。これまで学生の食事会場として、また学生同士の憩いの場として利用されてきましたが、食事以外の時間は自習の場として利用できるよう大規模な改修工事を進めます。

07

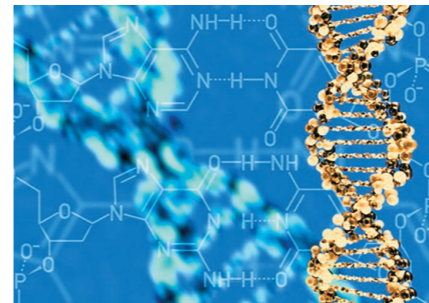
リハビリテーション医療の充実



超高齢社会におけるリハビリテーション医療の社会的ニーズに応えるため、2021年7月にリハビリテーション医学講座を開設。生活機能と障害の診断、治療技術において基礎から最新技術に至るまでの実践医療・教育に取り組んでいます。

08

がん医療の推進



2019年10月に「がんセンター」を設置。院内にある多数のがん診療部門を統括する横断的な組織として、診療科の枠を超えた多職種での連携・サポート等を行うことで、がん患者受入増進計画を推進していきます。

09

看護学研究科 博士課程設置構想



博士課程(Phdコース及びDNPコース: Doctor of Nursing Practice)を設置し、看護学分野の研究者や高度な看護実践を行う診療看護師や専門看護師の指導者を養成します。日本でも数少ないDNPの養成に挑むことで、我が国における高度看護実践のトップランナーを目指します。

10

先進医療研究棟構想



「世界を見据えた教育・研究活動の充実と発展」「診療・研究・教育を担う卓越した人材の育成」「地域医療・地域貢献の促進」などの5つの目標を掲げ、その実現に向けたプロジェクトを発足させていただきます。

充実の教育環境で行う 人材育成

豊かな緑と自然に囲まれた愛知医科大学には、学びを深める充実した教育環境が整っています。キャンパス内全ての講義室やセミナー室には、Wi-Fi環境が整備され、学生は、パソコンやタブレットを用いて、Webを通じた講義資料等の利活用ができる授業支援システム「AIDLE-K」を活用し、効率的に勉学に励んでいます。学修の履歴・成果を蓄積できるシステム「eポートフォリオ」の運用管理は総合学術情報センターが中心となって進めています。また、シミュレーションセンターでは、高度な臨床技術を習得するために、医学部、看護学部、大学病院を問わず、学生や医療従事者の学修を支援し、質の高い安全な医療の提供に貢献しています。

1 知の拠点として快適な学修環境を整備 総合学術情報センター

総合学術情報センターは、大学本館5階と6階にあり、図書館部門、ICT支援部門及び情報基盤部門の3つの部門が設置されています。この三部門が一体となって、新時代に向けた「知の拠点」として、さまざまな媒体の学術情報を蓄積し、利用できる場であり続けるとともに、教職員及び学生がICTを利活用して「自ら学修し、自ら気づき、自ら成長する」拠点として整備されています。



2 医学教育の改善・改革を図る 医学教育センター

医学教育センターは大学本館7階にあり、「世界標準の医学教育」を構築すべく、先進的な医学教育カリキュラムの策定・評価・実施、FD(ファカルティ・ディベロップメント)の企画・実施をするのみならず、成績不振学生に対する学習支援なども行っています。また、会議室、学生開放スペースなども備え、本学における医学教育活動の拠点として活用されています。



3 診療・看護に必要な知識・技術・態度の習得を支援する シミュレーションセンター

全身状態を変化させられる高機能のシミュレーターを用いた診療・看護技術の習得や静脈注射、超音波などの処置・検査技術の習得などさまざまなプログラムを提供しています。実践前の練習、日常の技術の確認、遭遇の少ない状況の模擬体験などを自由に選択し、学修できる環境が整っています。



4 看護職へのキャリア支援と地域住民の健康支援活動を行う 看護実践研究センター

看護実践研究センターは、看護職者へのキャリア支援として、看護実践を更に発展させるための卒後教育や研究支援のセミナー等を行っています。地域住民の健康支援活動は、関係機関や団体と連携し、主に子育て世代や高齢者の健康増進、防災に関する活動を行っています。



5 国家試験に向けた学修施設 医心館

大学本館に隣接する医心館は、主に医学部6学年次生及び看護学部4学年次生が利用しており、国家試験に向けてグループ学修の場としてセミナー室を提供しています。セミナー室には個人ブースで学修できる部屋もあり、学生が集中して勉強できる環境が整備されています。



卓越した研究活動と 最先端医療

研究活動を活性化させ、より多くの研究成果を生み出すことが大学の使命です。

愛知医科大学では、その力を十分に発揮することができるよう研究環境の整備に取り組んでいます。

また、大学病院ならではの高度な医療を提供するために、

常に新たな医療技術を取り入れ、最先端医療の実現に力を注いでいます。

1 研究活動の活性化と研究成果の創出 研究創出支援センター

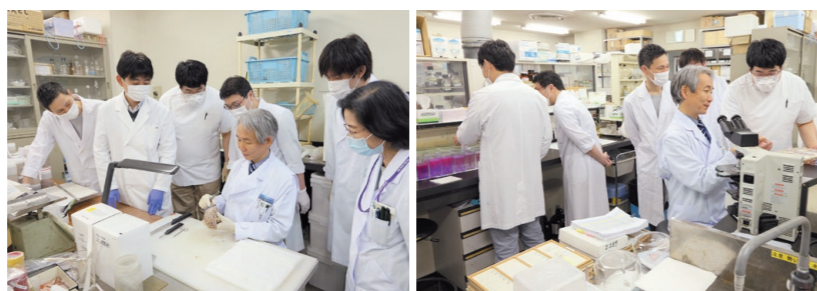


研究創出支援センターには、研究支援部門、共同実験部門、バイオバンク部門の三部門が置かれています。研究支援部門は、主に外部資金の獲得、産学連携などを担い、共同実験部門は、共同実験室の管理・運営を担います。加えて、バイオバンク部門は、臨床検体の収集・管理を行います。品質が担保された検体を適切に保管することにより、臨床研究や企業との共同研究に役立てることが可能です。各部門が一体となって、研究活動に関する総合相談、若手研究者の育成支援、研究基盤の整備を通じた総合的研究支援も積極的に実施しています。



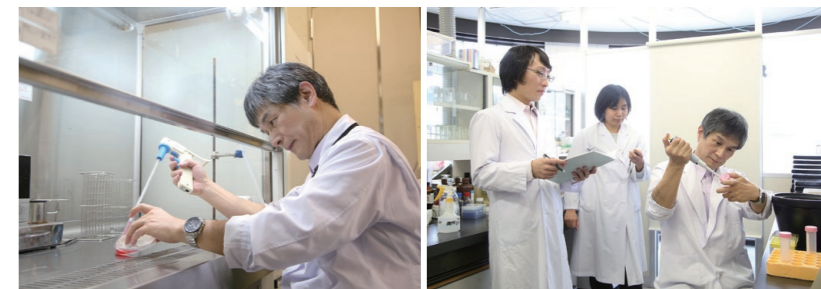
2 神経病理学の最先端を行く 加齢医科学研究所

神経病理部門、ブレインリソースセンター、プリオン病解剖部門、小児神経病理部門の四部門を有し、年間約150例の剖検脳の神経病理学的検討を行っています。加齢に伴う脳・脊髄の病理学的変化の検討、神経変性疾患の臨床病理学的検討、プリオン病の病理学的検討という3つの主要テーマの下に学内外の共同研究者とともに活発な研究を実施しています。国内における代表的な神経病理学の教育・研究施設の一つとして活動しています。



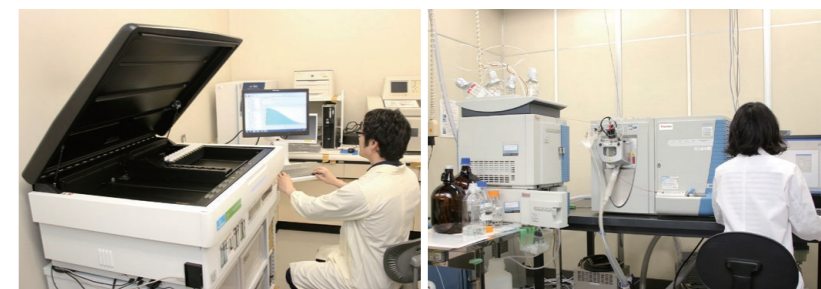
3 細胞外マトリックスの構造・機能を探る 分子医科学研究所

本研究所では細胞外マトリックスの構造と機能の研究を行っています。多細胞動物の細胞周囲にはコラーゲン、エラスチン、ヒアルロン酸、プロテオグリカン等からなる細胞外マトリックスという特殊な構造があり、この構造は組織・臓器の形をつくり、細胞の挙動を制御しています。細胞外微小環境の本体であるマトリックスに着目した研究は、炎症、腫瘍等の病態解明に直結するのみならず皆さんの健康増進にも繋がる重要な研究といえます。



4 研究の活性化を支援する 総合医学研究機構

研究支援業務の充実、研究に関する教育システムの構築などに取り組んでいます。研究機構には、動物実験部門、核医学実験部門、高度研究機器部門の三部門が置かれ、各部門では研究者への設備・備品への相談・要望に対応するほか、定期的な講習・実習等を実施するなど研究支援業務を行っています。



5 治験や臨床研究をサポート 臨床研究支援センター

企業治験や医師主導治験、臨床研究に対応し、新しい医薬品や診断法、治療機器、手技などの有効性及び安全性を確認するための管理業務を行っています。疾病の予防や治療、症状の軽減に繋がるより良い医療を提供できるよう治験や臨床研究を通して医療の進歩に貢献していきます。



6 手術の安全性向上と低侵襲を実現 高精度放射線治療装置と 最先端移動式術中イメージングシステムの導入

愛知医科大学病院では、がんをピンポイントに照射する定位放射線治療(SRT、SBRT)や強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)など、放射線治療を短時間かつ高精度に行うことが可能な高精度放射線治療装置「True Beam STx」を導入しています。また、手術中に治療部位を3D-CT画像で確認し、精度の高い手術を行うことができる、最新鋭の術中イメージングシステム「オーアームII」を導入しています。近年の高齢化により増加している脊椎の変性疾患に対する治療として、スクリュー(ボルト)で脊椎を固定する脊椎固定術を行う際などに活用しています。正確で患者さんに優しい、安全かつ安心できる高度な検査、治療が実施できるよう努めています。



地域とつながり 社会へ貢献する

愛知医科大学は、これまでに良き医療人を育成するとともに、公開講座の開講や諸施設の開放などを通して、地域住民の方々との連携を図ってきました。大学病院では、1974年の開院以来、患者さんの視点に立った医療によって地域を支えてきました。本学はこれからも自治体や関係企業・団体との連携を深め、社会へ貢献できるように努力を続けて参ります。

1 地域の発展と、人々の健康づくりに寄与するために 自治体・企業・高等学校との連携

本学は、2012年から3つの市(長久手市・北名古屋市・尾張旭市)と包括連携協定を締結し、保健・医療・福祉を始め、人的交流やインターンシップ、知的・物的資源の相互活用、ボランティア支援協力、地域のまちづくりなどの幅広い分野で協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とした活動を実施しています。また、長久手市と株式会社長久手温泉とも覚書を締結し、「健康増進」をテーマに、各種講演会やセミナー等を実施しています。また、2020年には瀬戸市と近隣の高等教育機関が協働して、新しい文化活動を創り出し地域に貢献していくことを目的とした「大学コンソーシアムせと」へ入会し、カレッジ講座としてモデル人形を通した一次救命処置の体験講座を実施しました。更に、愛知県が開催しているリリモツアーズ(主催:東部丘陵線連絡協議会)にも協力しています。ドクターヘリの見学会やフライトドクター・ナースの講演会を行い、近隣の小学生や保護者の方々に大変好評いただいています。2017年には、愛知県立長久手高等学校と高大連携協定を締結しました。2019年に開講された医療看護コースにおいて、看護学部を中心とした教員等が出張講義を行うなど、大学と高校の連携を更に深めており、2022年度は本コースの卒業生から1名が本学に入学されました。



リリモツアーズ



胸骨圧迫とAEDの操作を学ぶ一次救命処置体験

カレッジ講座での講演

- 愛知県
- 長久手市
- 株式会社
長久手温泉
- 長久手高校
- 北名古屋市
- 尾張旭市
- 瀬戸市

2 病気への理解を深める 地域交流事業の展開



公開講座

本学は、日常的な病気から重病まで様々な病気の予防や治療・対処法などについて、一般の方に分かりやすく理解してもらうため、公開講座を開催しています。また、名古屋市、長久手市、尾張旭市及び瀬戸市の施設において、自治体と連携した市民公開講座も開催しています。大学病院では、2018年度から地域住民を対象に愛知医科大学病院をより深く知っていただくために「オープンホスピタル」を開催しています。ステージ公演や児童向けの医療体験、栄養相談を始めとした様々な企画に多くの方が参加されており、なかでも、診療放射線技師仕事体験、薬剤師仕事体験、ちびっこ医師・看護師体験などの体験コーナーは子どもたちにも大人気のイベントとなっています。



オープンホスピタル仕事体験

3 健康増進施設 運動療育センター

医師、看護師及び健康運動指導士等の資格認定を受けた理学療法士やトレーナーが連携し、一人ひとりの健康状態に合わせた安全で効果的なトレーニングをご提供致します。疾病をお持ちの方向けの運動療法コース、現在疾病をお持ちでない方向けの健康増進コースなど複数のコースがあり、幅広い年齢層の方にご利用いただける施設です。



4 住みやすい街づくりへの貢献 私立大学研究ブランディング事業活動の推進

2018年度に文部科学省「私立大学研究ブランディング事業(社会展開型)」に採択されました。本事業は、本学が地域社会の人々の健康維持と増進を支え社会の負託に応える大学となることを目指しています。

日常生活において、何となく体調不良や疲労を感じる場合があります。多くの疾患は突然発症するのではなく必ず予兆があり、身体には何らかの炎症反応が生じています。本人が気づかない炎症反応を数値として示し健康状態を把握できれば、事前に対処して疾患の発症を食い止めることができます。本事業では「健常者」の血液を用いて様々な検査を実施し、健康状態に関する情報と照合して病気の発症を予知できる因子、病初期に変化する因子を見つける研究を実施しています。



研究協力者への説明



研究協力者への採血

この研究を「活力ある若いまち」長久手市にて推進し、その成果を社会に還元することで未来の健康長寿社会の実現につなげ、将来は本学と長久手市民との密接な関係を基盤とした「住みやすい街づくり」に貢献していきます。

救急医療や 災害医療に幅広く対応

救急医療の更なる発展に向けて、愛知医科大学では日々教育・研究・診療に取り組んでいます。

大規模災害に備えた災害医療研究や教育体制も整備し、災害医療の啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

高度救命救急センターの指定を受けた愛知医科大学病院では、

ドクターヘリやドクターカーを配備し、シームレスな救急体制を構築しています。

また、災害派遣医療チーム(DMAT)や、愛知県事件現場医療派遣チーム(A・IMAT)の活動も推進しています。

1 空飛ぶER ドクターヘリ



2002年1月から愛知医科大学病院を基地病院としたドクターヘリシステムが本邦で4番目の事業としてスタートし、現在では全国で56機のドクターヘリが配備されています。(2022年4月現在)

救急医療対応(ER)型ヘリコプターが常時待機し、主に消防機関からの要請を受けて、救急医療専門の医師・看護師が迅速に出動できる体制を整えています。機内には最新の医療機器を装備し、救急現場において直ちに治療を開始することによって容体の安定化を図り、患者さんにとって最も適切な医療機関に搬送して予後の飛躍的な改善に貢献しています。

現在の活動範囲は、愛知医科大学病院から半径70km圏内が中心ですが、大規模災害発生時にはヘリコプターの機動性を如何なく発揮できるよう隣接各県(岐阜・三重・静岡・長野)のドクターヘリとも連携できる体制が構築されています。

出動実績
(2021年度)

救急現場	288件
病院搬送	31件
キャンセル件数	79件
合計	398件

2 災害医療研究の拠点化を目指す 災害医療研究センター

我が国では、南海トラフ地震や首都直下地震の発生が切迫しており、災害医療体制の充実強化が急務となっています。災害医療研究センターでは、災害医療に関する教育(普及活動、研修、訓練の実施)や研究を行うとともに、大規模災害時の被害を軽減するため、国・愛知県等の行政機関を始め、近隣市町村との官学連携を通じて、啓発活動の推進や研修機会の提供などを推進しています。



行政機関等との研修会
(2019年度)



介護施設等防災リーダー養成研修
(Web開催)

3 24時間体制で重篤患者に対応 高度救命救急センター

愛知医科大学病院は、高度救命救急センターに指定された施設として、24時間365日の受け入れ体制を構築し、救急蘇生外傷治療室、三次初療室、EICU、HCU、緊急検査室などが連携して対応しています。三次救急医療機関としての役割に加え、2011年4月1日からは「救急告示医療機関」としての指定を受け、一次、二次対応の救急車の受け入れを更に強化しています。



ドクターカーとDMATカー



EICU(救急集中治療室)

4 災害時における医療救護活動の拠点 基幹災害拠点病院



2006年9月から災害拠点病院の中核を担う基幹災害拠点病院として、愛知県の指定を受けています。災害時における傷病者の受け入れだけでなく、被災地で医療支援を行うDMATを保有し、県内の災害拠点病院への災害医療研修など幅広い役割を果たしています。また、2008年には愛知県から「愛知DMAT指定医療機関」の指定を受け、人材育成にも力を注いでいます。

5 DMAT・DPATの派遣 災害派遣医療チームの活動

DMATは、災害現場での救命処置や災害拠点病院の支援、重症患者の広域医療搬送などを行う機動性を持った専門的な訓練を受けたチームです。愛知医科大学病院のDMATは5チームあり、1チームあたり4~5名で構成されています。

東日本大震災、熊本地震などの地震災害だけでなく、2020年の台風15号・19号大規模災害、ダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナウイルス対応のために、DMAT隊員を派遣しております。また、集団災害発生時に精神保健医療活動を行うチーム「DPAT」を、熊本地震の被災地へ3名派遣しています。



ダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナウイルス対応



熊本地震の被災地へDMAT・DPATを派遣

6 愛知県警察と連携したA・IMATの発足 Aichi Incident Medical Assistance Team

愛知医科大学病院は、2019年7月に愛知県警察と協定を締結し、A・IMATを発足いたしました。

A・IMATは、立てこもり事件等が発生した際に出動する愛知県の医療派遣チームです。立てこもり事件等、傷病者が発生する恐れのある事件の発生時には、愛知県警察から依頼を受け、医師、看護師、調整員の計3名のチームが現場に駆けつけます。傷病者が発生した場合に、速やかに応急の治療を実施することにより救命率の向上、後遺症の軽減等を図ります。なお、事件発生時の緊急出動や現場対応に円滑に対応するため、年間に数回、愛知県警察と合同で訓練を行っております。



愛知県警察との合同訓練で負傷者役を治療するA・IMAT



救急医療A・IMATのワッペン

大学

社会から評価され選ばれる医科大学をめざして



職員数

(2022.5.1現在)

総計 2,661名

学長 1名

教育職員 657名

教授	116名
准教授	75名
講師	106名
助教	176名
医員助教	93名
専修医	91名

事務職員 263名

技術技能職員 109名

業務職員 35名

医療職員 443名

看護職員 1,153名



理念・目的

愛知医科大学の理念は、建学の精神として定められており、三つの主眼点として次のことを掲げています。

- 1 新時代の医学知識、技術を身につけた教養豊かな臨床医の養成
- 2 時代の要請に応じて地域社会に奉仕できる医師の養成
- 3 医療をよりよく発展向上させるための医学指導者の養成

本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、道徳的能力と社会的有用性を基盤とし、新しい医学・看護学の知識及び技術をもって社会に奉仕する医師及び看護職者を育成するとともに、深く学術を研究し、医学・看護学の発展向上に貢献することを目的としています。

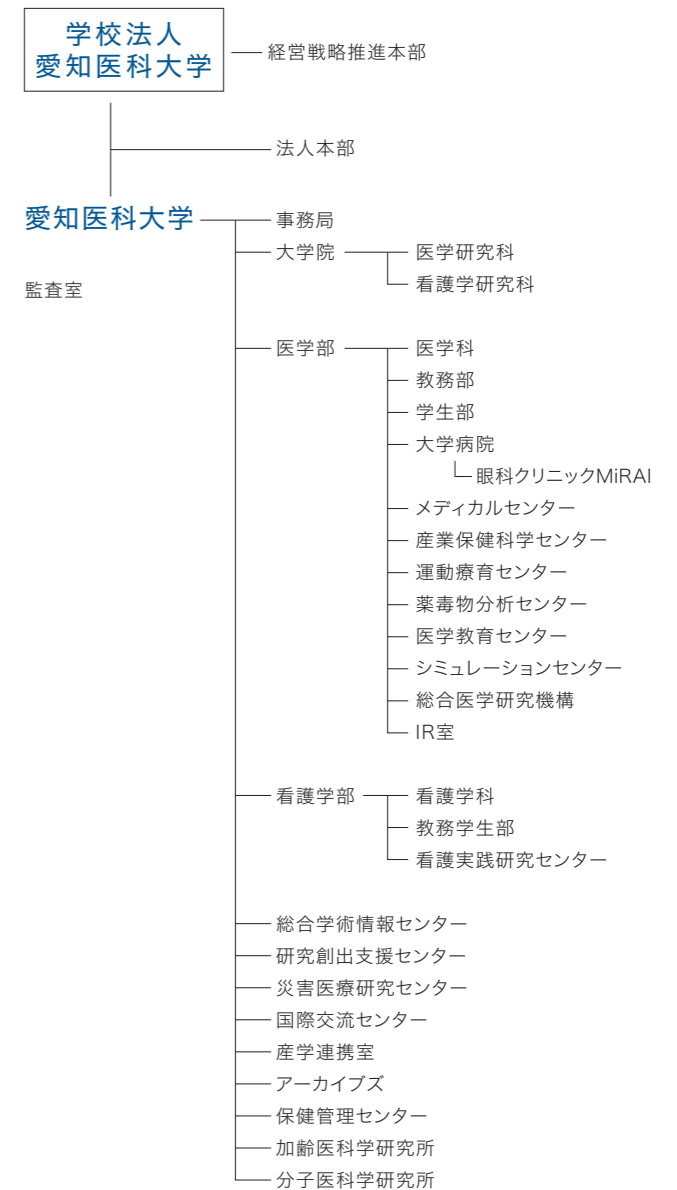
行動指針

愛知医科大学は、これまでも「特色ある医科大学づくり」を基本方針とし、存在意義を明確にする医科大学づくりに努めてきました。今後は、これまでの諸活動を一層発展させ、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針とし、改善の重点項目として次の三つの行動指針を定め、競争時代を勝ち抜くべく、教育・研究・診療にかかわるすべての領域において、更なる飛躍のための新たな改革実現に取り組んでいきます。

- 選ばれる医科大学** 「選ばれる医科大学」活動により地域社会との連携強化と貢献を目指す。
- 安心・親切・快適** 「安心・親切・快適」を信条に満足度の高いサービスを提供する。
- 自主自立・向上・協調** 「自主自立・向上・協調」精神により自己実現する職員を目指す。

(常任理事会2005年10月17日)

■ 組織機構図 (2022.7.1現在)



校章

常緑樹である橘は、古くから京都御所で「右近の橘」として珍重され、文化勲章のデザインにもなっています。また、中国の故事に、橘の葉と井戸水により多くの疫病患者を治療してとあり、後に橘井(きっせい)という語が医師を意味する言葉として使われるようになりました。本学では、橘の示す力強い意気をもって世界人類の幸福に貢献するという思いを込めて校章に使われています。



シンボルマーク

全体構成は、愛知の「A」を基本形に、医科の「I」と「K」、更には「人」という文字をイメージしており、医療メスと水平線に見立てたラインは、人と地域に貢献する医療の在り方を表現しています。カラーは、大学が知識と冷静さを感じさせる深いブルーからグリーンへグラデーション、大学病院は自然豊かな長久手の環境をイメージしたグリーンへのグラデーションで表されています。



創立50周年記念ロゴマーク

本学の校章である橘をモチーフに「50」を優しく包み込み支えるような橘の葉と、新たに花開くような橘の花を配し、これからの50年もグローバルな視点を持って地域医療に貢献していくという意思を表明したロゴマークです。「50」の文字には本学のシンボルカラーであるネイチャーブルーを使い、個性を表現しています。



医学部 医学科

新時代の医療に対応できる
優れた医師の養成



医学の研究に豊かな思考力と創造性を発揮し、常に医学の進歩に対応しつつ、高度の知識・技術を身につけた医師・医学者が求められる中、1972年に開学以来、質の高い人材を確保し、新時代の医療に対応できる優れた医師を養成するとともに、地域医療への貢献と国際的な医療の進歩、向上への協力を目指しています。

設置年	収容定員	在籍学生数	卒業生数
1972年 <small>学生の受け入れを開始して、今年で50年目を迎えました。</small>	690名 <small>(入学定員:115名)</small>	724名 <small>(男性:429名、女性:295名) ※2022年5月1日現在</small>	4,529名 <small>(1977年度～2021年度)</small>

たくさんの卒業生が医師として活躍しています。



教育理念

医学部の教育理念は、医学知識や技術の修得はもとより、医学を志す者として教養豊かな人間性を涵養することです。
すなわち、建学の精神及び学是に基づいた科学的・倫理的判断力、社会貢献の自覚を養い、情緒と品格を兼ね備えた医療人を育成することです。

教育目標

ヒューマンズムに徹し、医学・医療の社会的使命を進んで果たす医師を養成すること。

- 1 将来の医学・医療の様々な分野に共通して必要な基本的知識、技能、態度を身につけ、生涯にわたる学修の基礎をつくります。
- 2 自主性・創造性を身につけ、問題解決能力を高めます。そして、医学の進歩と、医療をめぐる社会情勢の変化に対応できる能力を涵養します。
- 3 医療を予防・診断・治療から社会復帰までの包括的なものとして捉え、自然科学のみならず、その背景にある心理的・社会的諸問題をも含めて総合的に対応できる能力を涵養します。

本学卒業生の
医師国家試験合格率

99.1%
(4,489/4,529名)

国際交流連携大学

9 大学

米国・ドイツ・タイ・韓国・ポーランド・イラン・ウクライナの7か国9大学と連携をしています。

第116回
医師国家試験合格率

94.1% ※新卒者

医学部長メッセージ 革新性と普遍性を備えた医療人育成

本学医学部は他に類を見ない学術環境のもと、常に新時代を見据えた医学教育を特徴としています。例えば超高齢者社会の疾病研究を行う加齢医学研究所、災害医療対策を担う災害医療研究センターや、高度救命救急センターを擁し県下唯一のドクターヘリ基地病院でもある大学病院と協働して、医学教育分野別評価で認定された国際基準の実践的医学教育を行っています。さらに本学は新型コロナウイルス感染症を契機とする感染症医療人材養成事業(文部科学省)に選定され、感染症に関する高度な知識を身につけた人材育成機関としても期待されています。本学は今年、Times Higher Education世界大学ランキングの「教育リソース分野」において、東海3県下で第一位の医学教育機関との評価を得ました。このように恵まれた環境の中で、すでにIoTやAIを駆使しビッグデータに基づくevidence-based medicineを実践する革新的医療人育成を開始しています。しかし、医療の根幹はヒューマンズムにあることを本学は決して忘れていません。本学医学部は次の半世紀に向けて、革新性と普遍性を備えた医療人育成を続けていきます。



医学部長
病理学講座 教授
笠井 謙次



看護学部 看護学科

人間性豊かな
質の高い看護専門職者の育成



2000年に開設された看護学部では、看護の対象となる人々との信頼関係を築き、人間尊重を基盤とした豊かな人間性と思いやりのあるケアを提供できる看護専門職者を養成するとともに、国際的にも社会貢献しうる質の高い実践者や教育・研究者になりうる看護専門職者の育成を目指しています。

設置年	収容定員	在籍学生数	卒業生数
2000年 学生の受け入れを開始して、今年で23年目を迎えました。	400名 (入学定員:100名)	410名 (男性:19名、女性:391名) ※2022年5月1日現在	1,995名 (2003年度～2021年度)

たくさんの卒業生が
看護師・保健師として
活躍しています。



教育理念

本学部は建学の精神、設置の主旨、学是に則り、人間尊重を基盤とした豊かな人間性(Humanity)、社会と人々の暮らしや健康を支える地域性(Community)、国内外の多様な文化と価値観を尊重する国際性(Internationality)、社会の変化や多様な状況・場に対応できる看護実践能力(Professionalism)の4つをコア・コンセプトと位置づけ、看護の発展に貢献し続ける実践者を育成することを理念としています。

教育目標

本学看護学部の教育理念に基づく教育目標は以下の4つです。

- 1 人間尊重を基盤とした豊かな人間性(Humanity)**
人を全人的に捉え、尊厳と権利を尊重し、健康と幸福を追求する能力を育成します。
- 2 社会と人々の暮らしや健康を支える地域性(Community)**
社会の環境と地域で暮らす人々の多様な生活課題を理解し、健康増進に貢献できる能力を育成します。また、保健医療福祉の連携・協働のもと、看護の機能や役割を発揮できる能力を育成します。
- 3 国内外の多様な文化と価値観を尊重する国際性(Internationality)**
グローバルな視点を持ち、多様化する文化的背景や異なる価値観を理解し、多文化共生社会に貢献できる能力を育成します。
- 4 社会の変化や多様な状況・場に対応できる看護実践能力(Professionalism)**
地域社会の健康課題から高度急性期医療に至る多様な状況に対応し、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を育成します。また、看護専門職者として主体的に研鑽を積み、生涯にわたり専門性を発展させていく能力を育成します。

本学卒業生の
看護師国家試験合格率

99.8%
(1,992/1,995名)

国際交流連携大学

5 大学

米国・フィンランド・タイ・シンガポールの4か国5大学と連携をしています。

第111回
看護師国家試験合格率

100% ※新卒者

看護学部長メッセージ ▶ 多様な人々のつながりのもとで豊かに看護を学ぼう

2000年度に設立された愛知医科大学看護学部は2020年度に創立20周年を迎えました。これまで愛知県を中心に多くの優秀な看護師・保健師を輩出し、今春19期生を送り出しました。社会の変化とともに、看護職に求められる役割は拡大し、活動場所も多様化してきています。社会の変化に対応できる高い専門性を持ち、幅広い分野で活躍できる人材を養成するために、看護学部では今後も挑戦を続けていきます。看護学部は高度な医療を提供する大学病院に隣接し、臨床感を持って看護学を学ぶことができる恵まれた環境にあります。2022年度から始まったカリキュラムでは、大学病院や学外の実習指導者と協働した支援の仕組みや医学部等との多職種連携教育(IPE)、愛知医科大学が包括的提携を結んでいる自治体との協働事業などの経験を活かして、特徴ある看護学教育を展開します。看護学部は米国、フィンランド、タイ、シンガポールなど海外の大学との国際交流も盛んです。今後も国内外の多様な文化や価値観を理解し、視野を広げる機会として学生の皆さんに積極的に活用していただきたいと思っています。これからも多様な人々と繋がり、わくわくするような学修環境のもとで、豊かに看護を学ぶことができる学部づくりを目指していきます。



看護学部長
地域・在宅看護学 教授
坂本 真理子

大学院

次世代を担う研究者を養成

大学院医学研究科 (博士課程)

医療・医学界を 背負う研究者 の養成

ヒューマンイズムの精神を身につけた豊かな人間性と広く豊富な学識を備え、これからの医療・医学界においてリーダーシップを発揮できる研究者を養成することを理念とする4年制の博士課程です。



大学院看護学研究科 (修士課程)

次代を見つめた 看護のスペシャリスト の育成

卓越した看護実践能力を備えた高度専門職業人の育成、絶えず国際的視野を持って研究活動を推進する研究者、看護の専門的能力を開発する看護教育者・管理者の育成を理念とする2年制の修士課程です。



専攻	授業科目
基礎医学系	細胞生物学(生物学)/解剖学/生理学/生化学/薬理学/ 病理学/感染・免疫学/衛生学/公衆衛生学/法医学/ 医学・医療教育学/加齢医学/分子医学
臨床医学系	内科学/精神科学/小児科学/外科学/脳神経外科学/ 整形外科/皮膚科学/泌尿器科学/産婦人科学/眼科学/ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学/放射線医学/麻酔科学/総合医学/ 形成外科学/リハビリテーション医学/臨床感染症学/病理診断学/ 統合疼痛医学/口腔外科学/救命救急医学/睡眠医学/ 輸血・細胞治療医学/新生児学/がん治療学/緩和・支持医療学/ 戦略的先制統合医療・健康強化推進学/医療安全管理学/医療薬学/ 災害医学/造血細胞移植・細胞治療情報管理学(連携大学院)

連携大学院方式の 導入

連携大学院方式とは、研究機関の研究者を大学の教員(連携教員)として迎え、その機関の研究環境を活用しながら研究指導等を行う、大学院教育の方式の一つです。2021年度から本学初の試みとして、連携大学院方式を導入し、研究指導が行われるフィールドが発展的に広がる第一歩を踏み出しました。

教育研究分野	専攻領域	コース
基礎看護学	看護管理学	修士論文
母子看護学	母性看護学	
成人・老年看護学	慢性看護学	
精神・在宅・地域看護学	精神看護学	修士論文
	在宅看護学	
	地域看護学	
高度実践看護学	感染看護学	修士論文 高度実践看護師(専門看護師[CNS])
	臨床実践看護学	修士論文 高度実践看護師(診療看護師[NP])

職業実践力育成プログラム(BP)認定



「職業実践力育成プログラム」(BP)とは、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定するものです。本研究科高度実践看護師(診療看護師[NP])コースは平成30年度に、高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースは令和元年度に認定されました。

教育訓練給付金(専門実践教育訓練給付金)指定講座認定

高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース及び高度実践看護師(診療看護師[NP])コースは、厚生労働大臣より、教育訓練給付金の専門実践教育訓練として指定を受けています。一定の条件を満たせば、2年間で最大112万円の給付が受けられます。

設置から

42年

1980年から学生の受け入れを開始しました。

収容定員

120名

(入学定員:30名)

在籍学生数

119名

(社会人学生:103名)
※2022年5月1日現在

学位授与

課程博士 | 論文博士
630名 | 417名
(1983年度~2021年度)

設置から

18年

2004年から学生の受け入れを開始しました。

収容定員

30名

(入学定員:15名)

在籍学生数

32名

(社会人学生:32名)
※2022年5月1日現在

学位授与

159名

(2005年度~2021年度)

国際交流

世界各地の医療現場を体験し、幅広い視野を育みます

国際交流センター

国際交流センターは、国際的かつグローバルな視野を有する医療人の育成を目指しています。教員の海外派遣、外国人研究員の支援、教職員の語学能力の向上など、様々な事業に取り組み、学内外の活発な国際交流を行っています。世界共通の医療人としての資質・姿勢と地域ごとの医療の差異・特徴を学ぶことは貴重な経験であり、医学・医療に携わる人にとって将来の活躍の礎となるでしょう。

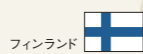
欧州

1 医学部 ルール大学



6学年次に進級する医学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースがあり、同大学の内科・外科などで本学の医学生が臨床実習を行っています。同大学とは学内サークルHIAMU(Heart in Aichi Medical University)を中心に、学生が主体的に交流活動を行っており、例年相互の大学から2名程度の医学生が留学しています。

2 看護学部 オウル大学



福祉先進国フィンランドは、高齢化社会を迎えた時期や高齢者の増加率が日本と非常に似ている国です。本学は、フィンランド中部の中心大学であるオウル大学との間で、教員の受け入れと派遣を実施しています。

3 大学 ウッチ医科大学



6学年次に進級する医学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースがあります。また、同大学とは医学生のみならず教職員などの交流プログラムも行っていきます。例年相互の大学から4名程度の医学生が留学しています。

4 大学 ポズナン医科大学



本学教員と同大学教員との長年にわたる友好関係が発展し、2020年4月に同大学と学術国際交流協定を締結しました。医学生の交流を中心とするプログラムとして、6学年次に進級する医学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースがあります。

5 大学 キーウ医科大学



2020年3月に同大学と学術国際交流協定を締結しました。同大学は、1992年に設立された私立医科大学で、世界中の教育システムを参考にし、カリキュラムの充実を積極的に図っています。今後は、研究者の交流、共同で行う研究等の協力活動等を中心とした交流活動を展開する予定です。

2

1 3 4 5

6

8 9

10

7

11

12 13

14

アジア

6 大学 シーラーズ医科大学



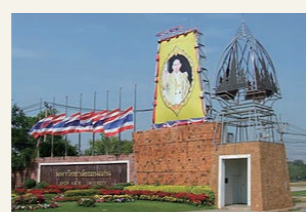
2019年8月に同大学と学術国際交流協定を締結しました。協定の内容は学生・研究者の交流、共同で行う研究等の協力活動等となり、現在、より良いプログラムの立案に向けて協議を行っています。

7 大学 東亜大学校医科大学



2016年度に同大学から研究者を受け入れ、相互の国際的協力を促進する一助となりました。今後は、学生の交流活動を含めたプログラムの実施に向けて協議を進めていきます。

8 医学部 コンケン大学



6学年次に進級する医学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースがあります。本学の医学生は、基礎・臨床の各分野から1~2分野を選択し、診断・治療業務に積極的に参加しながら臨床実習を行っています。例年相互の大学から7名程度の医学生等が留学しています。

9 看護学部 マハサラカム大学



タイ東北部の高等教育の中心を担う国立総合大学で、20の学部で45,000人の学生が学んでいます。医療系に強い大学としても有名で、医学部、看護学部、薬学部、公衆衛生学部、獣医学部が互いに連携し、高いレベルの教育・研究を行っています。同大学看護学部との間で学生の短期交換留学を実施しています。

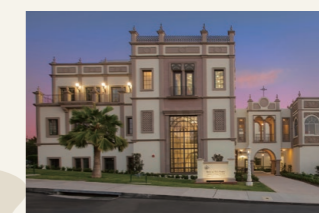
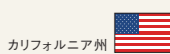
10 看護学部 シンガポール国立大学



シンガポール国立大学は、アジアのトップ校として教育・研究をリードするハイレベルな大学です。コン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科は、2016年に開設され、シミュレーションセンターや多職種連携教育などによる優秀な看護師を養成するための教育と科学的根拠を確立するための研究が行われています。2021年に同学科との間で学術協定(MOA)を締結し、看護学部生および大学院生の短期留学プログラムやセミナーへの参加等の学術・文化交流を実施しています。

米国

11 看護学部 サンディエゴ大学



米国において、特に多種多様な文化を持つサンディエゴ。当地にあるハーン看護健康科学学部との提携により、南カリフォルニアやメキシコのヘルスケアシステムに関する研究の発展が期待されます。

12 医学部 南イリノイ大学



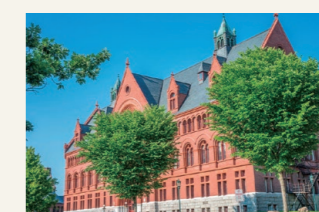
6学年次に進級する医学生を対象とした8週間のSIU医学部4年生(日本の6学年次に相当)が行う臨床実習選択コースへ参加するコースと、主に3・4学年次の学生を対象とした約3週間のSIU2年生カリキュラムを受講するコースがあります。例年二つのコースを合わせて約10名の学生がプログラムに参加しています。また、同大学からは3名程度の医学生が留学しています。

13 看護学部 ケース・ウェスタン・リザーブ大学



医学・看護学の分野における教育研究において米国内で高い評価を得ており、中でもフライトナーシングに関する分野では先進的な活動・研究が進められています。同大学のフランス・ペイン・ボルトン看護学部との間で、教員の受け入れと派遣及び学生の短期留学を実施しています。

14 大学 バーモント大学



6学年次に進級する医学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースがあります。同大学が位置するバーリントンには東海岸北部の学園都市で生活しやすく安全であり、その環境の中、本学の医学生は日本の他大学の医学生とともに、病理学分野を始め内科・外科などで臨床実習を行っています。

- 大学
- 医学部
- 看護学部

大学病院

特定機能病院として診療・教育・研究のすべての領域において
医療を基盤とした社会貢献を目指して



病床数	900床	患者数 (2021年度)	地域医療連携 (2021年度)
〈内訳〉			
一般病棟	853床	外来患者数(1日平均) 2,575名	紹介患者数(延数) 30,624名
精神病棟	47床	入院患者数(1日平均) 711名	登録医数 1,897名
		手術件数 13,333件	登録医施設数 1,700施設

職員数 (2022.5.1現在)					
医師	472名*	臨床検査技師	71名	歯科衛生士	5名
歯科医師	13名	診療放射線技師	67名	視能訓練士	10名
教員	1名	理学療法士	38名	臨床工学技士	20名
助産師	30名	作業療法士	12名	臨床心理士	6名
看護師	1,008名	言語聴覚士	8名	精神保健福祉士	2名
准看護師	1名	管理栄養士	16名	社会福祉士	8名
薬剤師	83名	歯科技工士	3名	事務職員	93名
				臨床技術員	3名
				医療技術員	4名
				調理師	29名
				看護補助員	2名
				業務職員	5名
				臨床研修医	61名

*臨床医学講座所属の教員を含む。

1974年に開院した愛知医科大学病院は、現在900床を有する医師養成の教育病院、そして高度な医療を提供する特定機能病院となっています。また、高度救命救急センターの認定を受け、その他に基幹災害拠点病院、ドクターヘリ基地病院、愛知DMAT指定病院、難病診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、エイズ拠点病院、肝炎診療連携拠点病院、愛知県アレルギー疾患医療拠点病院、臓器移植提供施設、地域周産期母子医療センター、認知症疾患医療センターとしての役割も担っています。患者さん本位の質の高い医療を常時提供すべく、優秀なスタッフの育成と施設・設備の充実に努めています。更に、公益財団法人日本医療機能評価機構に第三者審査を委託し、その結果、すべての審査項目にわたり標準以上レベルをマークし、2005年10月に同機構の認定病院として登録され、2020年10月に最新バージョンに更新されています。また、「生活時間の最大活用」、「医療の可視化」、「地域との協力」をコンセプトに、高度専門医療機能の強化と地域救急医療の充実に重点を置いた最先端の医療環境を整備し、数多くの最新医療機器を導入しています。加えて、高度急性期医療を支える「電子カルテシステム」、地域連携を支える「地域医療連携ネットワークシステム」も導入しています。



理念

特定機能病院として、診療・教育・研究のすべての領域において、医療を基盤とした社会貢献を目指す。

- 社会の信頼に応える医療機関
- 人間性豊かな医療人を育成できる教育機関
- 新しい医療の開発と社会還元が可能な研究機関

基本方針

1. 患者の人間性を尊重した全人的医療の提供
2. 信頼関係を大切に安全で良質な医療の実践
3. 豊かな人間性と優れた医療技術を持った医療人の育成
4. 先進的医療技術の開発・導入・実践の推進
5. 災害・救急医療への積極的な取り組み
6. 地域医療連携の推進及び地域医療への貢献

指定

1986年 1月 特定承認保険医療機関	2010年 4月 肝炎診療連携拠点病院
1994年 2月 特定機能病院	2011年 4月 救急告示医療機関
1996年 3月 高度救命救急センター	2013年 4月 地域周産期母子医療センター
1996年 10月 エイズ拠点病院	2013年 9月 認知症疾患医療センター
1999年 2月 難病医療拠点病院 (現・難病診療連携拠点病院)	2018年 10月 愛知県アレルギー疾患医療拠点病院
2002年 1月 ドクターヘリ事業開始	2019年 4月 地域がん診療連携拠点病院
2006年 9月 基幹災害拠点病院	2019年 4月 がんゲノム医療連携病院

診療科目

消化管内科	心臓外科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
肝胆膵内科	血管外科	放射線科
循環器内科	呼吸器外科	麻酔科
呼吸器・アレルギー内科	乳腺・内分泌外科	総合診療科
内分泌・代謝内科	腎移植外科	形成外科
神経内科	脳神経外科	救命救急科
腎臓・リウマチ膠原病内科	整形外科	リハビリテーション科
血液内科	皮膚科	睡眠科
糖尿病内科	泌尿器科	感染症科
精神神経科	産科・婦人科	病理診断科
小児科	眼科	疼痛緩和外科
消化器外科	眼形成・眼窩・涙道外科	歯科口腔外科

中央診療部等

中央臨床検査部	脳卒中センター	脳血管内治療センター
病院病理部	細胞治療センター	造血細胞移植センター
中央放射線部	臨床腫瘍センター	ゲノム医療センター
中央手術部	緩和ケアセンター	パーキンソン病総合治療センター
リハビリテーション部	糖尿病センター	炎症性腸疾患センター
高度救命救急センター	周術期集中治療部	頭蓋底外科センター
救急診療部	こころのケアセンター	腹部ヘルニアセンター
総合腎臓病センター	脊椎脊髓センター	NP部
輸血部	臨床研究支援センター	病院経営企画室
中央材料部	プライマリケアセンター	医療安全管理室
臨床工学部	総合物流センター	医療連携センター
睡眠医療センター	医療福祉相談部	がんセンター
いたみセンター	先制・統合医療包括センター	卒後臨床研修センター
内視鏡センター	栄養治療支援センター	医療情報部
周産期母子医療センター	人工関節センター	薬剤部
栄養部	スポーツ医科学センター	看護部
感染制御部	てんかんセンター	

病院長メッセージ

大いに信頼される
中核医療機関を目指して



病院長 道勇 学

愛知医科大学病院は、長引く新型コロナ禍の烈風に晒されつつも、職員一丸となって適時、慎重かつ綿密な診療対策を講じ、急性期重症患者を中心とした新型コロナ診療と通常診療との両立を果たしています。

本院が特定機能病院として急性期医療・高度先進医療の提供・研究開発・教育を責務としていることは周知の通りですが、加えて地域がん診療連携拠点病院、愛知県難病診療ネットワーク拠点病院、包括型認知症疾患医療センター等を始めとして数多くの医療連携拠点機能も担っており、近隣医療機関との骨太で良好な双方向の診療連携ならびに介護施設および在宅関連医療・介護機関とのバックアップ連携体制を構築し、持続的かつ活発な地域包括ケアシステムに繋げていく努力を続けています。また、本院は高度救命救急センター、臨床腫瘍センター、脊椎脊髓センター、ゲノム医療センター、パーキンソン病総合治療センター、炎症性腸疾患センター、頭蓋底外科センターなど、各種スペシャリストを擁したセンターを数多く設置し、医療の多様なニーズに応えるべく集学的医療に特化した専門診療も精力的に展開しています。

愛知医科大学病院は、今後も引き続き特徴ある高度先進専門診療体制の充実に図り、皆さまに大いに信頼される中核医療機関として日々邁進する所存ですので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

愛知医科大学 メディカルセンター



お車で越しの場合
伊勢湾岸豊田東インターを降りて国道248号線を岡崎方面へ約3分

公共交通機関ご利用の場合
名鉄東岡崎駅より、名鉄バスで奥殿屋行きもしくは足助行き「三菱自動車EV技術センター」下車

所在地

〒444-2148 愛知県岡崎市仁木町字川越17番地33
TEL:0564-66-2811
<https://www.aichi-med-u.ac.jp/medicalcenter/>

愛知医科大学 眼科クリニック MiRAI



地下鉄ご利用の場合

- 東山線「新栄町」駅下車 1番出口から北西へ徒歩約7分
- 桜通線「高岳」駅下車 4番出口から南東へ徒歩約3分
- 東山線 ■名城線「栄」駅下車 4番出口から北東へ徒歩約12分

所在地

〒461-0005 名古屋市東区東桜二丁目12番1号
TEL:052-931-2261 FAX:052-931-4841
<https://aichi-med-eyecenter.jp/>

病院長 羽生田 正行 副院長 加藤 義郎 / 齋藤 正敏

概要

当施設は2021年4月1日から愛知医科大学の分院として開院いたしました。一般急性期病床を始めとする回復期リハビリテーション病床、医療療養病床などを備えた総病床数270床のケアミックス型病院であり、訪問看護・訪問リハ・通所リハも含めて岡崎市や豊田市の皆さまを中心に急性期から慢性期に至るまで幅広い患者さんに対応しています。これまで整備を続けてきた整形外科、リハビリテーション科はもちろんのこと、大学分院ならではの専門性の高い医療も同時に展開していきます。今後更にリハビリ部門を充実させるとともに、透析医療や救急医療も拡充していく予定です。また、愛知医科大学の新しい教育病院として、医学部生、看護学部生の研修はもちろん、研修医・専攻医等の修練にも十分活用できる病院と考えています。

理念

地域を守り共に生きる中核病院として、患者本位の医療を目指します。

- 社会の信頼に応える医療機関
- 人間性豊かな医療人を育成できる教育機関

指定

- 2021年 4月 健康保険法による保険医療機関
- 2021年 4月 労働者災害補償保険法による指定医療機関
- 2021年 4月 生活保護法による指定医療機関
- 2021年 4月 難病の患者に対する医療等に関する法律による指定医療機関
- 2021年 4月 障害者総合支援法による指定自立支援医療機関(腎臓に関する医療・整形外科に関する医療)
- 2021年 4月 感染症法による結核指定医療機関
- 2021年 4月 児童福祉法による指定小児慢性特定疾病医療機関
- 2021年 4月 救急告示病院
- 2021年 4月 臨床研修病院
- 2021年 6月 障害者自立支援法による指定医療機関(更生医療・育成医療)
- 2021年10月 愛知県B型・C型肝炎患者医療給付事業における指定医療機関

■愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション

- 2021年 4月 指定居宅サービス事業者
- 2021年 4月 指定介護予防サービス事業者
- 2021年 4月 障害者総合支援法による指定自立支援医療機関(精神通院医療)
- 2021年 4月 難病の患者に対する医療等に関する法律による指定医療機関

基本方針

1. 継続性を重視した医療の提供
2. 治し支える医療の実践
3. 医療、介護、福祉へのつなぐ医療の提供
4. 信頼関係を大切に安全で良質な医療の提供
5. 豊かな人間性と優れた医療技術を持った医療人の育成
6. 地域の医療機関と連携し、地域の医療・福祉の向上に貢献

診療科(標榜科)

2022年5月1日現在

内科	糖尿病内科	形成外科
消化器内科	精神科	リウマチ科
循環器内科	外科	疼痛緩和外科
呼吸器内科	脳神経外科	リハビリテーション科
神経内科	整形外科	
腎臓内科	皮膚科	
血液内科	泌尿器科	

病床数

270床

クリニック長 三木 篤也

概要

愛知医科大学眼科クリニックMiRAI(Eye Center)は、眼科外来診療・日帰り手術に特化したクリニックです。大学病院の医師が、大学病院と同等以上の機器を用いて、緑内障・網膜硝子体・眼形成といった一般クリニックでは対応しづらい難治性疾患の高度医療を行います。一方で、眼科に特化した小回りの利く都心部のクリニックとして、これまで愛知医科大学病院への通院が難しかった患者さんにも、幅広く高度医療を提供していきます。診療だけではなく、大学ならではの研究にも取り組みます。特に、日本国内だけでなく世界的にも急速に増加し、社会問題化している近視の抑制を大きなテーマに掲げます。新たな産学連携拠点として、近視進行機序の解明、及び新規の近視進行抑制機能を有するコンタクトレンズの開発も目的としています。

理念

1. “明るく前向きに生きる”を手助けする
2. 世界をリードする眼科診療
3. 高精度の医療技術、最新の医療機器で、安心な治療を提供
4. 近視の病態解明と進行抑制治療の開発
5. 眼科医療革新のための新たな産学連携拠点

指定

- 1983年 6月 健康保険法による(特定承認)保険医療機関
- 1983年 6月 国民健康保険法による(特定承認)療養取扱機関
- 1983年 6月 原爆援護法 一般医療
- 1983年 6月 児童福祉法 措置等に係る医療
- 1983年10月 労働者災害補償保険法による医療機関
- 2014年12月 難病の患者に対する医療等に関する法律による医療機関
- 2015年 1月 児童福祉法 指定小児慢性特定疾病医療機関

組織

- 診療科
眼科/眼形成・眼高・涙道外科
- 臨床検査科
- 放射線検査科
- 薬剤科
- 看護科
- 事務室

AREA INFORMATION

緑豊かな自然と 快適な生活環境が融合する 長久手市



愛知医科大学が位置する長久手市は、名古屋市と豊田市に挟まれたベッドタウンです。

2015年国勢調査では、全国の自治体の中で住民の平均年齢が最も若く、人口増加率も全国で有数であることから「日本一若いまち」とも呼ばれています。

全国の都市を対象にした「住みよさランキング」でも上位に選ばれるなど、県内でも注目を集める都市の一つです。

長久手市には、愛知医科大学を含め四つの大学があり、快適に安心して学べる環境が整っています。

緑豊かな自然に囲まれ、オシャレなカフェやレストラン、雑貨屋などの商業施設も充実しています。

NAGAKUTE MAP



立石プラザ

1階にはコンビニ、2階にはフードコートが揃っています。診察やお薬、バスの待ち時間などにどなたでもお気軽にご利用いただくことができます。駐車場も完備されていますので、ぜひお立ち寄りください。

立石池

池の周辺には桜の木が立ち並び、春には花見スポットとしても人気です。

A | トヨタ博物館

ガソリン自動車が生誕した19世紀末から20世紀の自動車の歴史を体系的に展示した自動車博物館です。

B | イオンモール長久手

愛知医科大学から約10分と近く、映像と連動して座席が動く映画館も併設されています。

C | 長久手温泉ござらっせ

農産物販売所も併設された複合型日帰り温泉。愛知医科大学の教職員や学生の方には特別割引もあります！

D | 藤が丘駅

地下鉄東山線とリニモの始発駅。駅前には暮らしに役立つ施設が揃っています。

E | リニモ

磁気浮上式システムによる日本初の本格的な営業路線として開通。名古屋市の藤が丘駅と豊田市の八草駅を結んでいます。

F | IKEA長久手

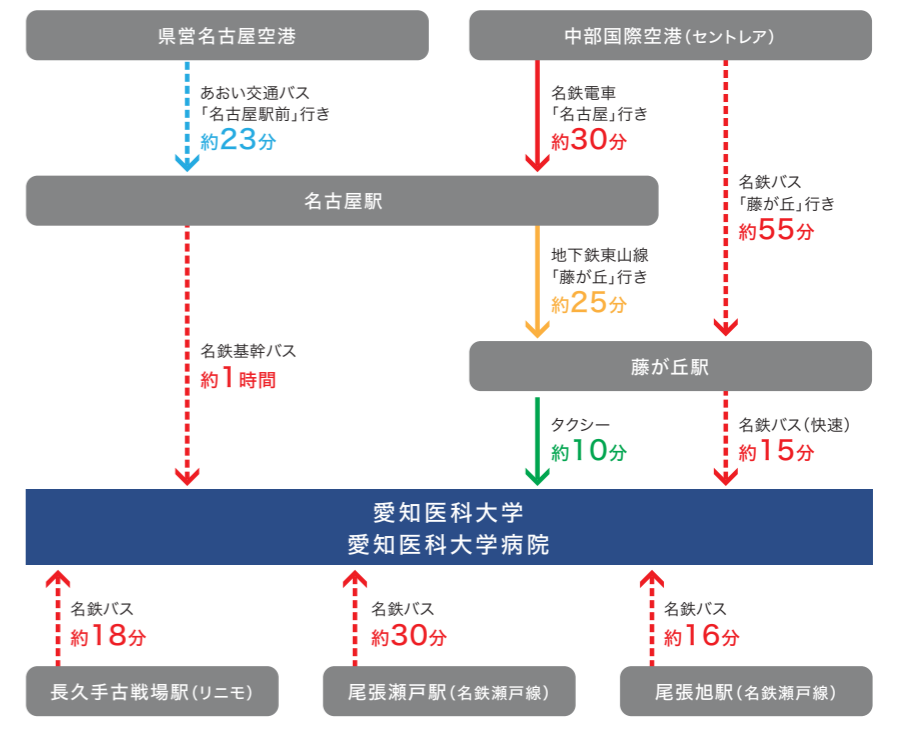
2017年10月に東海エリアで初めてオープン。倉庫のように広いスペースに組み立て式の家具や家庭用品を販売する北欧生まれの大型販売店。

G | 愛・地球博記念公園(モリコロパーク)

愛知万博長久手会場の跡地にオープン。万博でも人気を集めたサツキとメイの家を始め、観覧車や遊具などを揃えた総合公園。

園内にはスタジオジブリ作品の世界観を再現した「ジブリパーク」が2022年秋に誕生予定。

ACCESS



公共交通機関をご利用の方



自家用車をご利用の方

